

山之脇遺跡

第3次発掘調査報告書

—宅地造成工事に伴う発掘調査—

2021

彦根市

例 言

1. 本書は、彦根市教育委員会が宅地造成工事に伴い、平成30年8月6日から同年10月31日にかけて実施した、山之脇遺跡における埋蔵文化財発掘調査の報告書である。整理調査については、令和2年6月10日から令和3年3月にかけて行った。
2. 本調査の調査地は、彦根市山之脇町字九反田42-1、43-1に位置する。
3. 本調査は、彦根市教育委員会文化財部文化財課が実施し、整理調査については彦根市歴史まちづくり部文化財課が実施した。調査の体制は下記のとおりである。

平成30年度（現地調査）

教育長：善住喜太郎

文化財部長：高田秀樹

文化財課長：松宮智之

課長補佐兼管理係長：北坂 崇

文化財係長：三尾次郎

主 査：林 昭男

主 査：小林圭一

主 査：渡邊 輝（～平成30年11月）

主 事：西坊仁志（平成30年12月～）

技 師：内藤 京

臨時職員：樋口杏奈

文化財部次長：広瀬清隆

主 幹：井伊岳夫

副主幹兼史跡整備係長：北川恭子

主 査：深谷 覚

主 査：戸塚洋輔

主 査：田中良輔

主 任：斎藤一真

技 師：舟山友祐

臨時職員：沖田陽一

臨時職員：飯島由紀子

令和2年度（整理調査）

市長：大久保貴

歴史まちづくり部長：広瀬清隆

副参事兼文化財課長：松宮智之

主幹兼史跡整備係長：鈴木康弘

副主幹：小川有紀

文化財係長：三尾次郎

主査：戸塚洋輔

主査：田中良輔

主任：斎藤一真

主事：西坊仁志

技師：舟山友祐

会計年度任用職員：沖田陽一

会計年度任用職員：飯島由紀子

会計年度任用職員：久保亮二

会計年度任用職員：小野直子

歴史まちづくり部次長：久保達彦

主幹兼歴史民俗資料室長：井伊岳夫

主幹：辰巳 清

課長補佐兼管理係長：牧田 歩

主査：林 昭男

主査：多賀公一

副主査：門西靖子

主任：鈴木達也

主事：北村双葉

技師：内藤 京

会計年度任用職員：樋口杏奈

会計年度任用職員：岡田ひとみ

会計年度任用職員：豊村たまき

会計年度任用職員：阿部春香

4. 現地調査と整理調査は田中が担当し、以下の諸氏が参加した。
現地調査：友田 勇 藤岡 剛 宮川圭史 目戸律夫（作業員） 沖田陽一（臨時職員）
整理調査：阿部春香 岡田ひとみ 豊村たまき 樋口杏奈
5. 本書で使用した遺構実測図は、沖田陽一、田中が作成し、遺物実測図については、岡田ひとみ、樋口杏奈が作成した。遺構と遺物の写真撮影は、田中が行った。
6. 本書の執筆及び編集は、田中が行った。
7. 本書で使用した方位は、平面直角座標第VI系の真北に、高さは東京湾平均海面に基づく。
8. 本調査で出土した遺物や写真・図面等は彦根市文化財課で保管している。

目 次

例言

第1章	序 論	1
1	調査に至る経緯と経過	
2	地理的・歴史的環境	
	（1）地理的環境	
	（2）歴史的環境	
第2章	調査成果	3
1	基本層位	
2	遺構と遺物	
	（1）概要	
	（2）遺構・遺物	
第3章	総 括	4

図版

報告書抄録

第1章 序論

1 調査に至る経緯と経過

本書は民間開発による宅地造成工事に伴って実施した、山之脇遺跡（彦根市山之脇町所在）の発掘調査成果をまとめたものである。今回の発掘調査は、宅地造成工事に先立ち提出された文化財保護法第93条の届出及び調査依頼に基づくものである。

平成30年7月4日に彦根市山之脇町字九反田42-1、43-1において開発面積2,333.79㎡を対象として試掘調査を行ったところ、開発区域の一部、北西端付近において、小穴や耕作溝と考えられる遺構群を確認した。このため、開発行為に先立つ平成30年8月6日～平成30年10月31日の期間において、道路の敷設によって遺構の保存が不可能となる部分、約115㎡を調査対象地として設定し、本発掘調査を実施した。その後、令和2年6月～令和3年3月にかけて整理作業を行い、本報告書の刊行となった。

2 地理的・歴史的環境

(1) 地理的環境

山之脇遺跡は彦根市域の北部、彦根市山之脇町および小泉町一帯に所在する周知の埋蔵文化財包蔵地である。この地域は芹川中流域の左岸、独立丘陵である雨壺山の南側に位置している。この雨壺山の南麓は緩やかな谷地形となっており、その谷底を芹川の支流である平田川が東西方向に流れている。

平田川や、その旧流路を流れる地下水は、一年を通して豊富な水量を湛えており、近隣の農業用水として、古くから利用されてきた。このため、水量豊かな低地部には水田域が広がり、

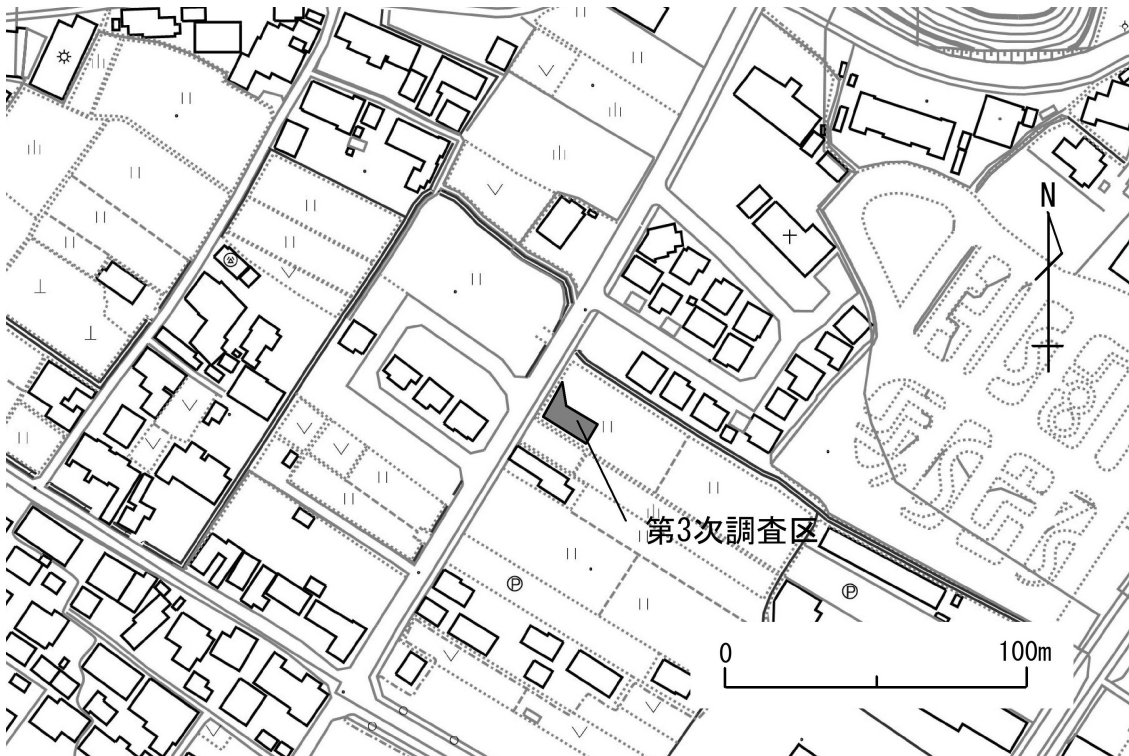
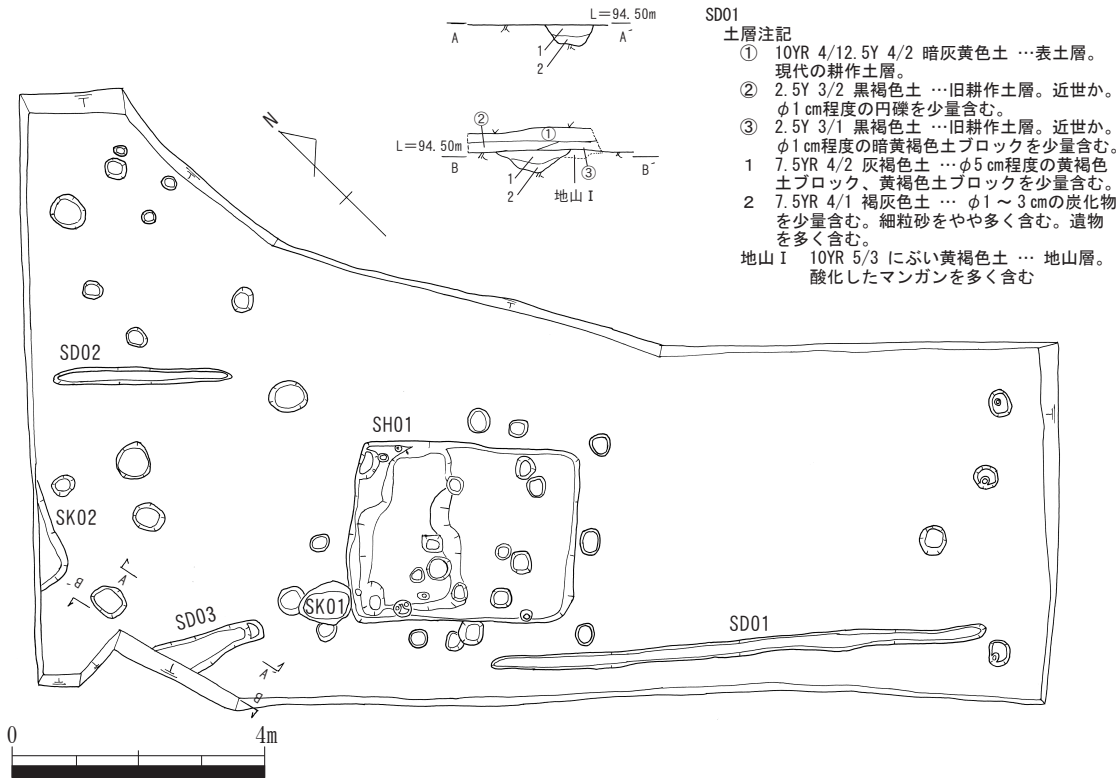


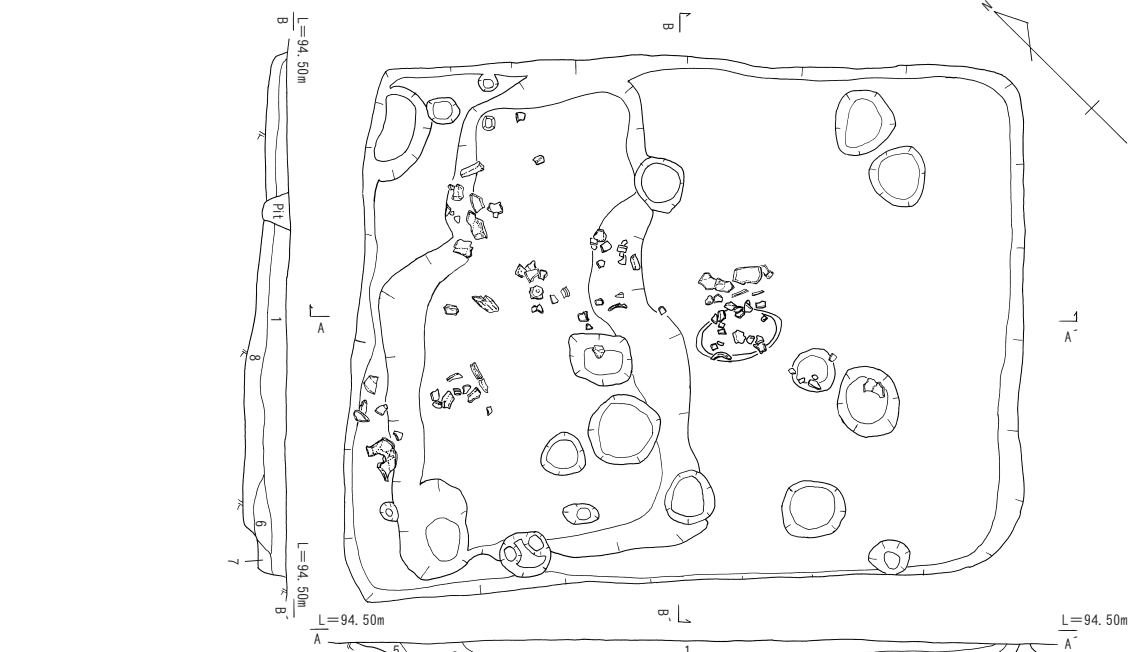
図1 位置図



SD01

土層注記

- ① 10YR 4/12.5Y 4/2 暗灰黄色土 … 表土層。現代の耕作土層。
- ② 2.5Y 3/2 黒褐色土 … 旧耕作土層。近世か。φ1 cm程度の円礫を少量含む。
- ③ 2.5Y 3/1 黒褐色土 … 旧耕作土層。近世か。φ1 cm程度の暗黄褐色土ブロックを少量含む。
- 1 7.5YR 4/2 灰褐色土 … φ5 cm程度の黄褐色土ブロック、黄褐色土ブロックを少量含む。
- 2 7.5YR 4/1 褐灰色土 … φ1~3 cmの炭化物を少量含む。細粒砂をやや多く含む。遺物を多く含む。
- 地山 I 10YR 5/3 にぶい黄褐色土 … 地山層。酸化したマンガンを多く含む



SH01

土層注記

- 1 10YR 4/2 灰黄褐色土 … 遺物多く含む。φ1~3 cmの円礫少量含む。φ2~5 cmの暗褐色土ブロックを多く含む。
- 2 10YR 4/1 褐灰色土
- 3 10YR 3/2 黒褐色土 … φ1~3 cmの褐色土ブロックを多く含む。
- 4 10YR 4/2 灰黄褐色土 … 細粒砂を少量含む。
- 5 10YR 4/2 灰黄褐色土
- 6 10YR 5/2 灰黄褐色土
- 7 10YR 4/2 灰黄褐色土
- 8 10YR 4/2 灰黄褐色土 … 遺物多く含む。φ1~3 cmの炭化物粒を少量含む。φ2~3 cmの黄褐色土ブロックを多く含む。
- 9 10YR 3/2 黒褐色土 … 細粒砂少量含む。

SH01 遺構平面図

図 2

雨壺山の麓では標高が高く安定した水はけのよい土地柄となっていることから、畑としての土地利用がされているほか、江戸期から現代にいたるまで、集落の居住域としても利用されてきた。

(2) 歴史的環境

山之脇遺跡周辺には、永享12年(1440年)の創建と伝わる新神社や、延徳2年(1490年)に多賀町後谷から雨壺山南麓へ移り、慶長4年(1599年)に現在地の平田町に移ったと伝わる明照寺といった、創建時期が中世に遡る社寺が複数存在している。

山之脇遺跡第1次発掘調査では、16世紀頃の遺物を伴う掘立柱建物や土坑、溝などの遺構が検出されているほか、近接する一ツヤ遺跡においても15世紀後半から16世紀初頭にかけての時期に始まる集落跡が見つかっており、近隣の社寺の造営と歩調を合わせるように、地域の開発が進んでいく様子が明らかとなっている。

また、この第1次調査では、中世の遺構に切られる形で検出した自然流路の埋土から、比較的摩滅の少ない庄内式並行期の土器片が多数出土しており、近隣に当該期の集落域があるものと予測された。

今回の調査地点は、この第1次調査区から東へ約200mと、比較的近い地点に位置していることから、第1次調査と同様、弥生時代終末から古墳時代初頭頃および、中世後期の遺構群の存在が予想されていた。

第2章 調査成果

1 基本層位

本調査地点においては、表土層である褐色土層(現代耕作土層)が約30cm、褐灰色粘質土層(旧耕作土層)が約10cmあり、その下部において地山層である黄褐色土層を確認した。

今回検出した遺構は、いずれもこの黄褐色土層の上面において検出している。

2 遺構と遺物

(1) 概要

発掘作業は、重機によって地表面から約40cm余の耕作土層を除去したのち、地山層の上面において遺構の検出作業を行った。その結果、竪穴建物1棟、土坑1基、溝3条、小穴群などの遺構を検出した。遺物については竪穴建物SH01を中心に、庄内式並行期の土器が多数出土している。以下、主要な遺構および出土遺物について詳述する。

(2) 遺構・遺物

SH01 SH01は、調査区のほぼ中央に位置する、平面隅丸長方形を呈する竪穴建物である。主軸の方位は北西—南東方向を指向し、平面規模は長軸約3.6m×短軸約2.9m、深さ約0.3mを測る。床面は西側でやや深く掘り込まれており、建物の廃絶時に床面付近から再掘削を行い、廃棄土坑として利用されたものと考えられる。遺物としては鉢(5)、甕口縁部(7、11、13、14、16、26～41)、甕底部(17、23)、壺口縁および肩部(8～10)、壺底部(24、25)、高坏(43、44、46～50)、台付甕の脚台(51～53、55)などが出土している。これらのうち甕の口

縁については、くの字状を呈するもの（7、11、13～15）、受口状を呈するもの（26～28、31～35、38～41）、S字状を呈するもの（29、30、36、37）の三種が見られる。また、壺底部（25）については底部に焼成前の穿孔が施されていた。

SK01 SK01は、SH01の西側に近接する、平面不整円形を呈する土坑である。平面不整楕円形を呈し、規模は長軸約0.6m×短軸約0.5m、深さ約0.4mを測る。遺構内部からはSH01と同時期の甕（1～4、12、15、18、19、21）、高坏（42）などが出土している。

SK02 SK02は、調査区の西端に位置する土坑である。遺構の大半が調査区外となっていることから、全体の形状は不明である。規模は長軸約1.6m×短軸約0.6m、深さ約0.5mを測る。遺構内部からは台付甕の脚台（54）が出土している。

SD01・02 SD01・02は、各々調査区の南西部と北西部に位置する耕作溝である。現在の街区と同一の主軸を持ち、この地域の条里と一致する。平面規模は、SD01が長さ約7.9m、幅約0.3m、深さ約0.1mを測り、SD02については長さ約2.9m、幅約0.3m、深さ約0.03mを測る。構築年代については不明な点が多いものの、SD01の上層から土師器皿（56、57）が出土しており、概ね中世後期頃の遺構と推定される。

SD03 SD03は、調査区の北西部に位置する溝である。平面規模は、調査区内においては長さ約1.8m×幅約0.6m、深さ約0.4mを測るが、調査区外へと延びるため全容は不明である。遺構内部からは遺構埋土からは庄内式並行期の高坏脚部（45）、甕口縁部（6）、甕底部（20）、壺底部（22）などが出土している。

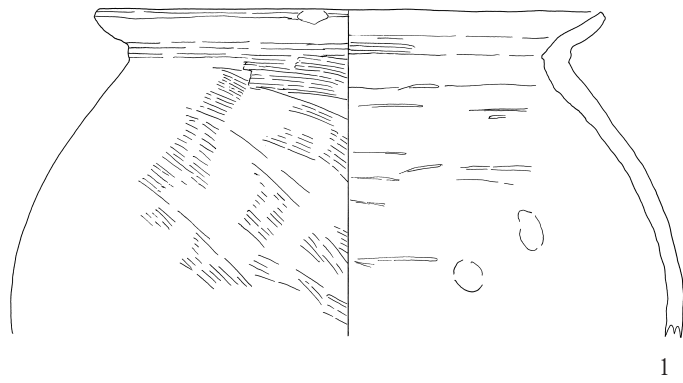
第3章 総括

山之脇遺跡での調査事例は、平成30年に実施した第1次調査と、今回の第3次調査とほぼ同時期に実施した第2次調査の2例しかなく、遺跡全体としての状況については不明な点が多い。しかし、今回の調査では庄内式並行期の竪穴建物が検出されるなど、彦根市北部における当該期の人々の活動の一端を知る上で、貴重な手がかりとなった。

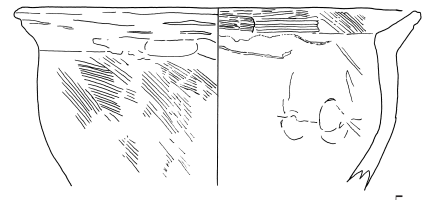
一方で、集落の中心領域の位置は依然として明らかにはなっておらず、その究明は今後の課題である。

また、今回の出土遺物には、台付甕やS字状口縁甕など、東海地域との交流を示すものが一定量出土している。同じ彦根市域でも、南部に位置する稲部遺跡では、在地の遺物に対する他系統の遺物の割合は低く、山之脇遺跡とは様相が異なる。地域単位でのそうした様相の把握も、同じく今後の課題となるであろう。

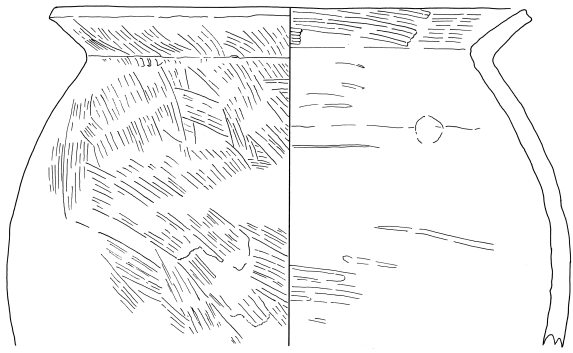
以上、今回の調査成果について概略を述べてきたが、上述のとおり不明な点も多く、課題も残されている。このため、山之脇遺跡における調査事例の増加と、それによる新たな知見に期待することとしたい。



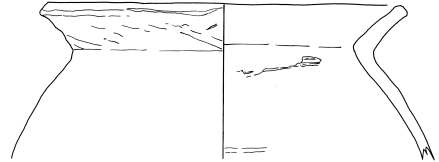
1



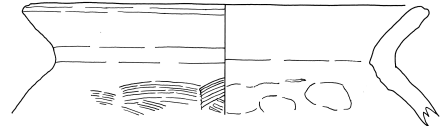
5



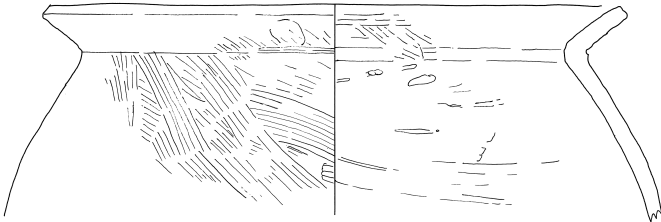
2



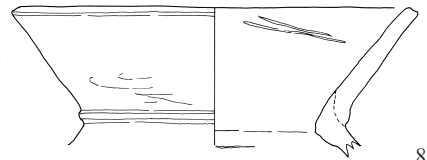
6



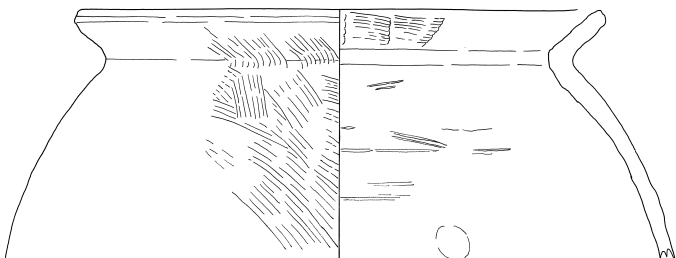
7



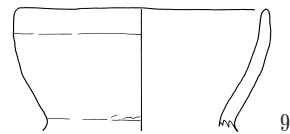
3



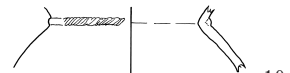
8



4



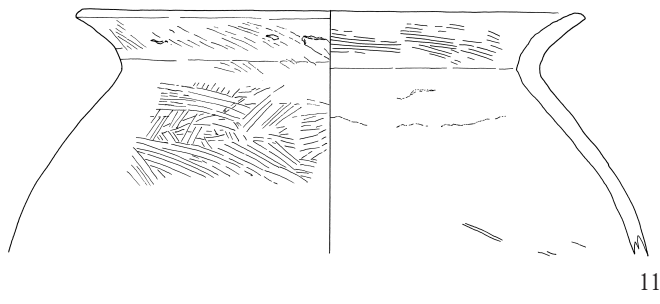
9



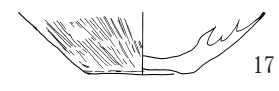
10



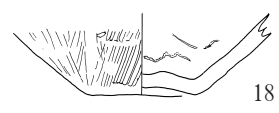
图 3



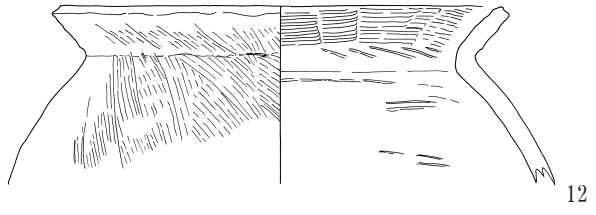
11



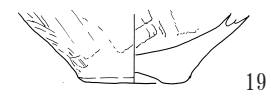
17



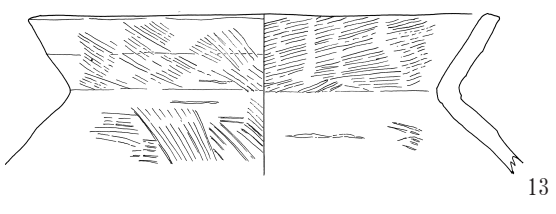
18



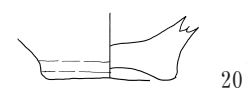
12



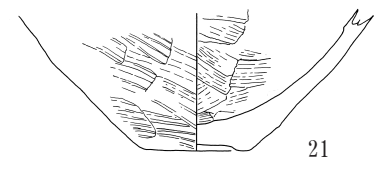
19



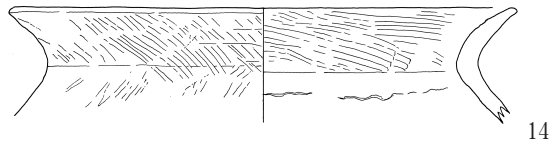
13



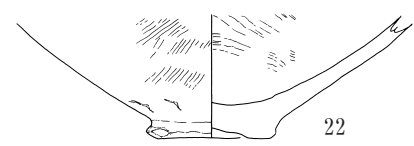
20



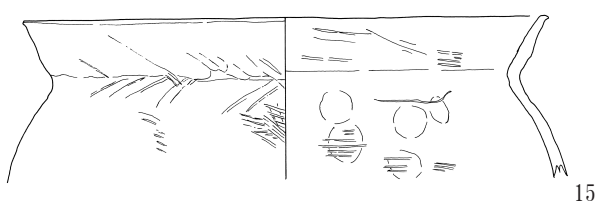
21



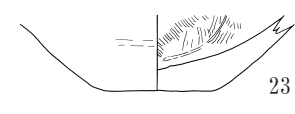
14



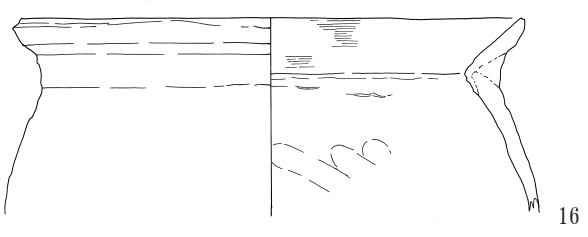
22



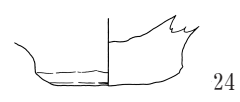
15



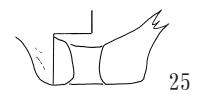
23



16



24



25



图 4

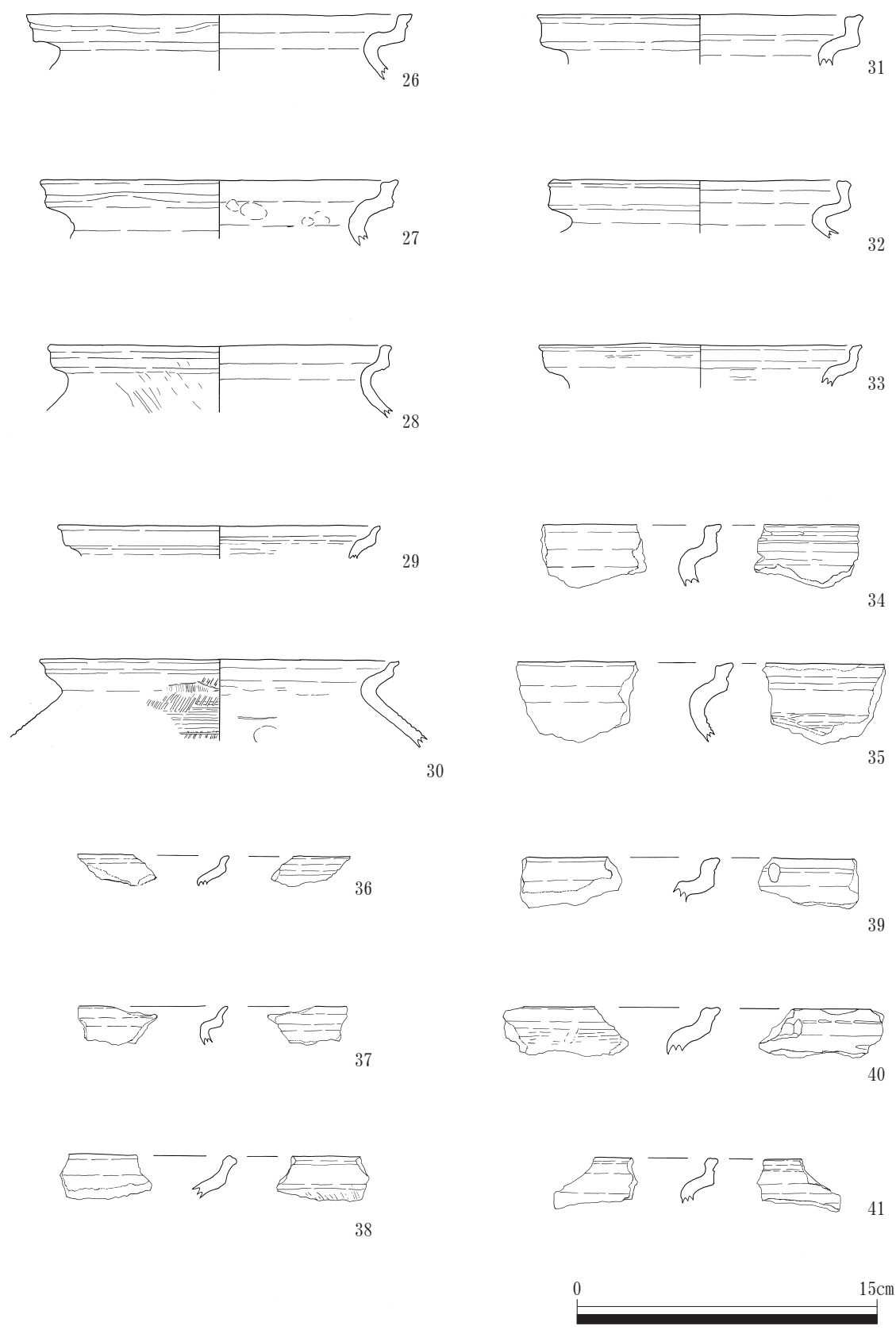
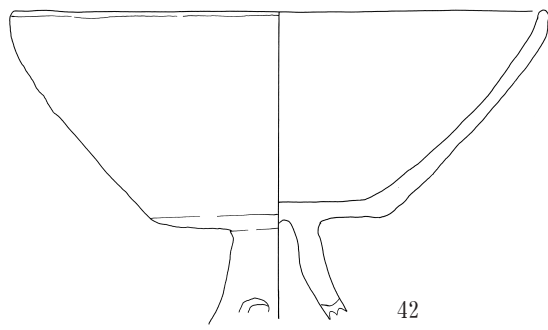
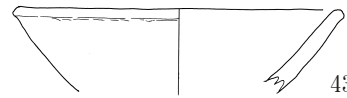


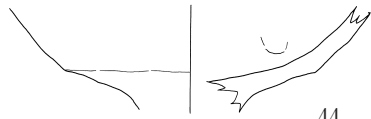
图 5



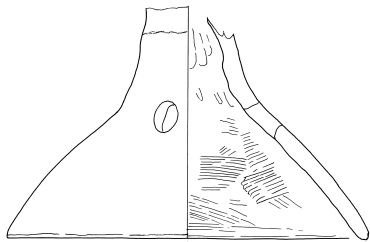
42



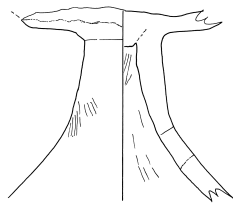
43



44



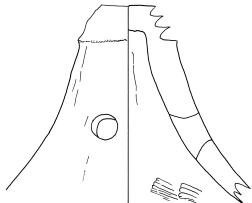
45



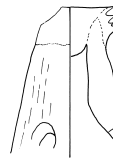
46



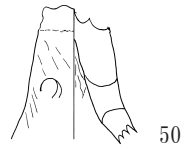
47



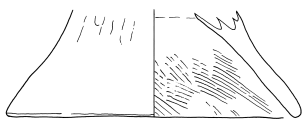
48



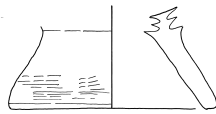
49



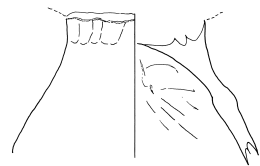
50



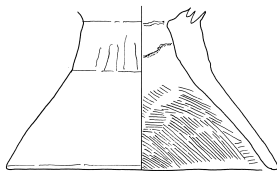
51



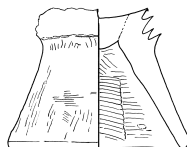
52



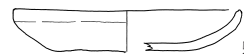
53



54



55



56



57



图6



1 調査区全景（西から）



2 SH01完掘状況（南西から）



3 SH01遺物出土状況（南から）



1 SH01層断面 南西－北東壁（東から）



2 SH01土層断面 北西－南東壁（西から）



3 SK01遺物出土状況（北から）



1 SD03 掘削状況（東から）



42



36